

## 特集

# 神山天文台ボランティアチーム半年間の歩み

鈴木杏那、松崎玖美（京都産業大学 神山天文台ボランティアチーム）

## 1. はじめに

私たちは京都産業大学の学生による神山天文台（こうやまてんもんだい）ボランティアチームです。このチームは私たちの間では「神ボラ（かみぼら）」の愛称で呼ばれています。今年（2011年）の5月に結成されたばかりのチームで、毎週木曜日にミーティングを開いてイベントを企画し、この半年間、様々な活動をしてきました。本記事ではそんな私たちの活動を皆様にご紹介したいと思います。

## 2. 発足の目的

私たち神山天文台ボランティアチームは本学の学生はもちろん、周辺地域の方々、さらには全国の人に神山天文台を知ってもらい、少しでも天文の楽しさを感じていただくために発足しました。神山天文台は長い階段を上りきった高所にありますので、何となく行きにくいなと感じたり、天文台というだけで堅いイメージがあったり、そもそも開いているかどうかもわからない、と感じる方は多いと思います。私たち神ボラのメンバーにもそういった印象を持つ人が少なくありませんでした。そんなイメージを払拭し、望遠鏡で星を見たときの感動や天文を学ぶ楽しさを知ってもらえるような場に天文台がなればいいなという思いもありこのチームを作りました。

メンバーは神山天文台の補助員、または補助員養成講座を受講する学生の有志で、私たち理学部の学生だけでなく、法学部、経営学部、総合生命科学部、さらには外国語学研究所の大学院生など、いろいろな学部から集まっています。

## 3. 活動内容

それでは、神ボラの活動を紹介させていただきます。

### 3.1 神ボラメンバーでの観望会

まず、天文に関する知識をつけるために神ボラメンバーで8月8日に観望会を行いました。天文台の前の広場を利用し、星座早見盤の使い方を勉強した後、実際に星座を探しました。この日は天気も良く、アークトゥールス、月、夏の大三角形を見ることができました。星座早見盤は実際目にすると意外とわからないことが多く、まずは月日や時間がかかっている周辺の数字のことから、どう合わせるのか学んだ後は、見たい星が今見えるかどうかを確認する方法など順々に学んでいきました。

9月13日には小型望遠鏡を使った観測の練習もしました。望遠鏡で星を視野に入れることは思っていたよりも難しくそれだけで観望会のほとんどの時間を費やしてしまいました。また時間が少し経つだけでもう星が動いていて、こんなに速く動くものなのだと衝撃を受けました。3時間ほどの観望会でしたが、知らないことが多かった分とても実りのあるものになったと思います。

### 3.2 一般観望会

10月29日には毎週土曜日に荒木望遠鏡を公開する一般観望会に合わせ、天文台の前の広場で小型望遠鏡を出し来場者と一緒に星を見ました。この一般観望会は私たち神ボラが初めて一般の方と触れ合った機会です。あいにくこの日は曇りで星がほとんど見えず、見るのを諦めかけたこともありましたが、それでも粘り観測を続けたところ、幸いにも木星、

ベガ、アルビレオをみることができました。荒木望遠鏡で星が見えず暇そうにされていたお客さんにも大変喜んでいただきました。この観望会では、雲が多く星が見えないときの話題提供や対応の仕方を考えておく必要があることを学びました。このときは望遠鏡をのぞいて見える像が上下左右逆になることを説明した後、遠くに立つ神ボラメンバーのTシャツに印刷された文字をお客さんに見てもらうことでそれを体験してもらいました。これにはお客さんも驚かれ、こういう話題の提供の仕方があるのだということも学びました。

### 3.3 神山祭（学園祭）

そして11月4、5、6日の3日間行われた神山祭では、私たち自身で荒木望遠鏡の案内を行いました。さらに案内の内容に沿ってクイズラリーも実施し、全問正解した方には荒木望遠鏡オリジナルペーパークラフト（図1）を配布しました。



図1 荒木望遠鏡オリジナルペーパークラフト

同時にアンケートも行ったので、来られた方の率直な意見を聞くことができました。その中でもクイズに関しては、荒木望遠鏡の焦点の種類に関する問題など内容が少し難しいと思う方が多数おられ、もっと親しみやすい内容にするべきだったなと思いました。

また、天文台から少し離れたところにある建物の一角に場所を設け展示物を作りビラを使って呼びこみを行いました。実際に天文台まで案内した後、その帰りにもビラを配るなどひたすら呼び込みを行った結果、ビラを見て天文台に来たという方もいてその効果は絶大でした。この甲斐あってか、今年の神山祭期間中、神山天文台へは約500人と、特に企画が行われなかった前年度の神山祭よりもたくさんの方に来ていただけました。

私たちが神山天文台に来られた方に案内するのは初めてで、戸惑いや緊張もありましたが、やっていく内にシナリオに沿いながらも自分なりのアレンジを加えながら案内を行えるようになりました。このシナリオは知識があまりないところから作らなければならなかったもので、シナリオ担当の人があちこち奔走して頑張りました。元々神ボラの人数が13人と少ないこともあって、当日は一度に人が来た時などの対応に苦労しました。案内係2人、クイズの採点をしてペーパークラフトを渡す係が1人、受付1人という体制をとり臨みました。10時～13時、13時～15時、15時～17時という三交代制でしたが、忙しさのあまり引継ぎがうまくいかず同じようなミスが次の時間帯でも起こるということがありました。どう引継ぎをうまくするかということが来年の課題です。また、クイズラリーはやらずにドームだけ少し見学したいという方もおられました。そうした方には少しお待ちいただくなどしましたが、様々なニーズの方に柔軟に対応できるようにする必要があるなと思いました。しかし人数が少ないながらも、一人一人が役割を持ち積極的に活動することができたと思います。初めは単にペーパークラフトを作りたい、何かしたいという漠然とした思いがあり、それならば神ボラが結成されたことをこの神山祭という機会に宣伝しよ

うという強い思いに発展したことから参加することにした神山祭です。参加すると決定したものの具体的に何をするのかということに随分と時間を費やしました。人手が足りないこと、経験が浅いため何であればできるのかといったことや、何より参加を申請したときすでに神山祭まで1ヶ月足らずだったことなどが問題でした。しかし、当日部活などで来られない人は上映するスライドを作成するなど、みんなで役割を分担して、間に合わせることができました。神山祭が終わった後の達成感は大きく、来年に向けて課題を見つけることができたとともに、経験と自信を積むことができたと思います。

また、当日はアンケートを実施したのでその結果をもとにこれからのミーティングで話を詰めていきたいと思っています。そのアンケートでは来られた方の所属、私たちが行ったクイズや天文台案内についての感想、そして天文台のイメージなど9つの項目を質問しました。アンケート回答者数は277名でした。その中で本学卒業生の方が113名と圧倒的に多く、来年は本学の学生さんにももっと来てもらえるようにするのが目標になりそうです。また私たち神ボラのことを「知らなかった」と答えた方が264名と来られた方のほとんどを占めていて、今回知っていただけたことにより、神ボラ発足の宣伝をするという神山祭での目標の一つ達成されたと思います。さらに荒木望遠鏡の案内を終えた後の天文台にもイメージについても聞きました。この質問に対して、「入りにくい」と答えた方が27名、逆に「開かれた場所」と答えた方が48名で、天文台は「入りにくい」というイメージを払拭したいという当初の目標を少し達成できたのではないかと思います。その他「レーザーポインターを使ったほうが分かりやすい」「展示物を増やしビデオ放映などをする」といいのでは」といった指摘も来年に活かし

ていきたいです。「土曜日の一般観望会に参加してみたくなくなった」、またOBの中には「この天文台のことを知らない人が多いと思います。もっともっと知らしめましょう！！」といった心強い意見をかいてくださった方もいて、これからの活動につながる貴重な意見と経験を知り、実行できた神山祭だったと思います。

#### 4. おわりに

半年間これだけの活動をしてきたわけですが、今後はもっとたくさんの方に挑戦していきたくて考えています。一番やりたいことはメンバー内で行う観望会の回数を増やして、メンバー全員で天文学の知識を高めることです。そうして来年の神山祭や一般観望会でお客さんが楽しいと感じてくれるような解説ができるようになることが目標です。また、天文台が親しみあるものとして多くの方に来ていただけるようイベントを実施したり、マスコットキャラクターを考えたりしたいと思います。さらに現在公開には至っていませんが私たちの活動記録や天文に関する話題ののせたブログも作成中です。これからも活動を通していろんなことを学んでいきたいと思っています。最後まで読んでいただきありがとうございました。



神ボラメンバー

鈴木杏那  
松崎玖美